

薩摩国の「鹿児島」から「城下町」と「町人町」、そして「かんまち」へ

現在の上町地区は、古代においては薩摩国の鹿児島郡に位置する一地方に過ぎませんでした。鹿児島郡内では、郡司の矢上一族が催馬楽城などを拠点として郡を治めている記録がみられます。南北朝期に入ると、守護の島津氏が南進し、5代当主貞久は東福寺城に入ります。島津本宗家が鹿児島に入ることにより、鹿児島が拠点となっていき、6代当主氏久は大隅国守護でありながら、東福寺城を拠点の1つとしていました。7代当主元久は清水城に入り、この城が鹿児島城とも称されました。このように歴代の本宗家の当主が鹿児島を拠点とし、関係する寺社もこの地に建立されるようになります。戦国期には御内（内城）が置かれ、稻荷川河口が港として利用され、城下町がさらに形成されました。

江戸時代になると本城が鹿児島（鶴丸）城に移ったことに伴い、武士町、町人町は南側へ拡大し、現在の上町地区は、鹿児島城の北東部に位置する「上方限」として寺社や武士町が広がる場所で、埋め立てを含めた開発も行われました。上方限に付随する町人町が「上町」で、現在に至るまで地区の呼び名として受け継がれています。

明治時代、旧鹿児島城下は西南戦争によって甚大な被害を受けますが、そこから復興し、明治34（1901）年には鹿児島県初の鉄道が上町地区の鹿児島駅から国分駅（現隼人駅）まで敷かれました。明治42（1909）年には八代駅まで延伸され、鹿児島駅は鹿児島の玄関口としての役割を担い、まちの発展を支えました。

現在、人々はこの地区を「かんまち」と親しみを込めて呼び、長い歴史を刻んできた文化財宝庫の地として、魅力を発信しています。

1. 薩摩国における「地方」の時代（古代から鎌倉期）

薩摩国が設置されて以降、島津氏が東福寺城に入り拠点とする南北朝期まで、鹿児島は薩摩国を中心ではありませんでした。鹿児島郡の中心ではあったようで、郡内を治める長谷場氏などが拠点としていました。そこに島津氏が現在の北薩地域から南下してくるのです。

①能楽源流の碑 催馬樂の地名

道路沿いに建つ「催馬樂の碑」には、催馬樂の地名は隼人族が催馬樂という神

樂を演じる習わしがあったことから「せばる」の地名になったと記されています。

また山手にある催馬樂公園の中には、「能樂源流の碑」が平成 2 (1990) 年に建てられています。現在でも坂元小学校では、様々な文献などを参考にしながら創作された隼人舞を披露する会が開催されています。



催馬樂の碑

②長田神社（福ヶ迫諏訪神社）

承久 3 (1221) 年に勧請されました。初めは山門院木之牟礼城内（現在の出水市）にありましたが、5代当主貞久によって福ヶ迫と呼ばれる現在地に移されます。その際には下諏訪神社の名前でした。明治 2 (1869) 年、長田神社（現在の神戸市にある神社）と御祭神が同じであることから、長田神社に改称されて現在に至ります。歴代の島津家当主や鹿児島城下の武士などからも崇敬されてきた由緒のある神社です。

2. 島津本宗家の居城としての時代（南北朝期から戦国期）

5代当主貞久が東福寺城を拠点とし、6代当主氏久も当城に入ります。その後、7代当主元久は清水城を中心の城と定め、島津本宗家の菩提寺としての福昌寺を創建します。こうして島津本宗家の拠点である鹿児島が、重要な場所となっていきます。

①福昌寺関連（鹿児島島津家墓所：国指定文化財）

島津本宗家の菩提寺である福昌寺は、現在玉龍中学校・高校がある場所にありました。明治 2 (1869) 年の廢仏毀釈によって廃寺となり、現在は歴代当主などの墓が当時を偲ばせます。山号は玉龍山で、龍という言葉からも想像されるように背後の山からの水も豊富で、多い時には約 1500 名の修行僧がいたという大きな曹洞宗の寺院です。島津本宗家の 6代から 28代までの当主、島津



福昌寺島津家墓所 C-1 区近景（南西より）
(鹿児島市教育委員会提供)

久光、忠濟（玉里島津家 2代当主）の墓が中心で、その家族の墓もあります。由緒墓には家老の調所広郷の墓もありますが、平成 13 年に東京から移設されたものです。

②清水城跡

7代当主元久が築城したとされる山城です。その後、14代当主勝久まで本宗家の城として使用し、鹿児島城とも呼ばれていました。永正5（1508）年に、11代当主忠昌はこの城で自刃しています。地域の人々によって城の入り口や散策路などが整備されています。



清水城跡

③浄光明寺関連

時宗寺院で、相模国藤沢山清淨光寺の末寺として創建されました。建治3（1277）年には、一遍上人が南九州に来た際に立ち寄ったとされています。島津家歴代当主から崇敬され、特に21代当主吉貴の帰依は厚く、自身の墓も当寺に置きました（後に福昌寺跡の鹿児島島津家墓所に改葬）。薩英戦争によって被害を受け、その後に廃寺となり、跡地は西南戦争の西郷軍の戦没者の遺体が集められ、南洲墓地となりました。一角に再興された寺院には、仏像などが立ち並んでいます。



浄光明寺の墓石

④なつみの滝

滝之神水源地の中にある滝です。江戸後半に編纂された地誌「三國名勝図会」にも「菜摘の滝」として記載され、それによると文禄3（1594）年に太閤検地に訪れた細川幽斎が「ここもまたよし野にちかきなつみ川 ながれて滝の名にやおつらん」との歌を詠んだとされています。



なつみの滝

3.藩政時代の中核（江戸期）

内城を中心に神社や寺院、家臣の屋敷も配置され城下町が形成されていましたが、初代藩主・家久は拠点である鹿児島城を城山に位置付けます。これに伴い城下町も南側に拡大し、現在の上町地区は、城下町の中心ではなく、城の北部地域に位置する寺社や上級武士の武家屋敷のある場所、さらにそれに付帯する町人町が海岸線沿いに広がるようになります。

①秋葉神社

弘化2（1845）年、上町が火元となった大火があり城下の多くが焼けました。そのために弘化4（1847）年、火伏せの神である秋葉神社が建立されました。現在は上本町の恵比寿公園に移設され、地域の方々よって大切にされています。



秋葉神社

②蛇の穴

鹿児島城下から吉野に向かう坂の途中の「たんたど」にあります。吉野火碎流堆積物の溶結部に空洞があり、下からのぞくと空が見え、その穴が蛇の穴と呼ばれていました。残念ながら、のり面改修などによって当時の様子は失われました。

③樟腦山

藩政時代に始まる樟腦製造は、昭和期まで行われていました。その原料となるクスノキが豊かであったのが、現在の西坂元町の上之原団地の山でした。別名「樟腦山」と呼ばれ、団地造成が始まる昭和37（1962）年まではその名残がありました。それまでの日本専売公社の造林地との位置づけもあり、クスノキが茂っていました。

④興国寺墓地

興国寺は福昌寺の末寺で、11代当主忠昌及び、18代当主家久の夫人である持明院の菩提寺でした。明応5（1496）年に現・清水中学校付近に創建されましたが、その後城山の下に移動、さらに鹿児島城の築城に伴い冷水町に移りました。廃仏毀釈で廃寺となりましたが、興国寺墓地となって、鹿児島藩の記録を多く残した伊地知



興国寺墓地

季安・季通、日当山侏儒どんこと徳田大兵衛、薩摩藩英國留学生に最年少で参加した長澤鼎など、著名人の墓も多くあります。鹿児島市内で最も古い市営墓地であり明治43（1910）年に開設されています。

⑤メルヘン館横の石灯籠

かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館の南側にある細い階段は江戸時代の絵図でも確認することができ、かつては山手に諏訪神社があったようです。関連は不明ですが、この道沿いにあることから諏訪神社への献灯と考えられます。灯籠の柱の部分には名字のある武士の名が刻まれています。



メルヘン館横の石灯籠

⑥砲術館跡

天保 8 (1837) 年にアメリカのモリソン号が山川沖に来たことを契機に、10 代藩主・斎興^{なりおき}は洋式砲術の採用を決め、弘化 4 (1847) 年に砲術館を開きました。現在は記念碑が建立されているだけです。



砲術館跡

⑦鋳製方跡

洋式砲術の採用とともに砲台の築造、大砲や小銃の製造も進められました。製造が行われたのが鋳製方で、弘化 3 (1846) 年に設置されました。作られた大砲は青銅製で、鹿児島藩における大砲製造の始まりになります。この地は、稻荷川の河口域にあたり、調所広郷の時代に埋め立てられた場所です。



鋳製方跡

⑧消えた地蔵町

かつて上町は「上町六町」という 6 つの町があり、恵美須町、和泉屋町、車町、地蔵町、柳町、浜町がありました。このうち地蔵町は明治 4 年から栄町に名を変えました。昭和 42 (1967) 年に住居表示が実施され、栄町は浜町と柳町に編入されました。恵美寿町、和泉屋町の一部、車町の一部は「上本町」に再編されるなど、かつての上町六町の名は使われなくなりました。

4.鹿児島駅の登場から現在へ（明治期から現在）

明治期に入り、旧鹿児島城下は明治 10（1877）年の西南戦争で甚大な被害を受けます。そこから復興し、近代的な市街地を形成するなかで、商業地や歓楽地は現在の天文館地区が発展することになります。しかし、明治 34（1901）年に鹿児島県で初めての鉄道が鹿児島駅を基点に開通、鹿児島駅は鹿児島の玄関口となり、交通要所としての役割を上町地区が担います。昭和 20（1945）年以降は、その役割が西鹿児島駅（現・鹿児島中央駅）へ移りましたが、鹿児島駅は貨物駅として現在も物流を支えています。

①最大乗院

15 代当主貴久は、内城（現大龍小）に拠点を移した際、それまでの本拠地であった清水城の跡に大乗院を島津家の祈願所として建てました。廃仏毀釈で廃寺となりましたが、明治 18（1885）年に最大乗院として再興されました。境内には石仏や六地蔵、再興以降に寄進された石造物も多くみられます。



最大乗院

②不断光院の仁王像

不断光院はもともと現在の長田町にありましたが、薩英戦争に際して石垣の立派さから城と間違って砲撃を受け焼失、再建されないまま廃仏毀釈によって廃寺となりました。易居町に明治 16（1883）年に再興されています。仁王像は別の場所で土中に隠されていたものを掘り出して、売りに来たものを買ったといわれています。



不断光院の仁王像

③鶴江崎神社の石碑

稻荷川の河口域に土砂がたまり沖積地が形成され、鶴江崎と呼ばれています。幕末期には都城島津家の屋敷が移転されたとしています。この地には天照大神と豊受姫神を御祭神とする鶴江崎神社がありましたが、現在の若宮神社前に移転され、そこには記念碑のみが建っています。

④上町市場

鹿児島駅の北側にある集合商業住宅で、戦後に天蓋ができる地域のマーケットとして親しまれてきました。一階が店舗、二階が店舗を経営する人の居住空間として使用されてきました。様々な業種の店舗がありましたが、時代とともに変化し、現在は天蓋と建物が残っています。なお、最近は一部が新しくコミュニティースペースとして使用されるなど新たな取り組みも行われています。



上町市場

⑤上本町への町名変更

上本町の町名誕生は昭和 42 (1967) 年のことです。もとは和泉屋町の全部と恵比寿町、車町、下龍尾町、長田町の一部でした。上町の中心地、または上町発祥との意味もあって本の文字が上町の中に入ったとされています。

⑥坂元墓地 (川口雪蓬など)

鹿児島市によって昭和 11 年に開設された墓地です。戦後には上町地区の旧武家屋敷地や新照院の墓地からの移設も受入れたため、古い墓もみられます。西郷隆盛が沖永良部島に流された際に出会い、その後西郷家を支えた書家・川口雪蓬の墓もあります。



坂元墓地

⑦鹿児島測候所跡

明治 30 (1897) 年、それまで易居町にあった鹿児島測候所が西坂元の上之原に移転しました。標高は約 120m で、大正 4 (1915) 年 7 月に上荒田に移転するまで、気象観測が行われました。その間、大正 3 (1914) 年の桜島大噴火があり、測候所の判断が批判されました。

⑧伊東佑亨元帥誕生地の碑

清水小学校の敷地内にあります。伊東佑亨は天保 14 (1843) 年に清水町に生まれました。幕末には坂本龍馬らとともに神戸海軍操練所で学びました。明治 22 (1889) 年海軍大学校長などを経て、日清戦争では連合艦隊司令長官として活躍しました。

⑨風景樓跡

田ノ浦地区は、祇園之洲の埋め立てが行われる以前は、桜島を眼前に望む風光明媚な景勝地として知られていました。そのため重富島津家の別邸が移設されたり、知事公舎が置かれたりなどもしました。明治 30（1897）年には海岸沿いに風景樓という料亭もつくられ、当時は小舟で直接料亭に着くこともできました。昭和期までにぎわう料亭でしたが、現在は痕跡をたどることはできません。



風景樓跡付近（2003 年撮影）

⑩日豊本線の旧トンネル

明治 34（1901）年、鹿児島駅から国分駅（現在の隼人駅）まで鉄道が誕生しました。その際に使用されていた磯地区までのトンネルは、昭和 54（1979）年 10 月に日豊本線が全線電化されるまでは現役でした。電化によって新たに設けられたトンネルが並行して通され、現在はそちらが使用されています。しかし、旧トンネルも立ち入りは禁止されていますが、残されています。

⑪大龍小学校の資料館

大龍小学校のある場所は、戦国期には内城、その後は大龍寺が置かれた場所であることから、校内はもとより学校敷地内からは様々な出土品が確認されています。また、学校も伝統校だけに貴重な品々も保管されています。こうした学校に伝わる遺物が展示している部屋が校舎内にあります。

⑫旧鹿児島県民教育文化研究所（国登録有形文化財）

戦国時代の内城に近接した屋敷地で、一帯は重富島津家屋敷地でした。現在の建物は昭和 14（1939）年に藤武喜助邸として新築、太平洋戦争での焼失も免れた、戦前の優れた建築技術を伝える建物です。昭和 35（1960）年に教育会館維持財団の所有となり、遠隔地の教員や子どもたちが宿泊する「春日寮」としても使用されました。昭和 56（1981）年からは鹿児島県民教育文化研究所となり、初代館長は教育活動家である赤羽王郎が目されていましたが、開館直前に亡くなつたため、同じ長野県出身でもある椋鳩十氏が就任しました。



旧鹿児島県民教育文化研究所

⑬日本澱粉株式会社跡

大正 6 (1917) 年に稻荷町に作られた工場で、でん粉、水飴、アルコール、黒糖を製造する総合工場でした。多くの資本が投じられた工場でしたが、大正 9 (1920) 年 5 月 24 日に蒸気機関が爆発し死傷者を出し、工場も損害を受け会社は解散しました。敷地は現在の清水中学校にあたります。



日本澱粉株式会社跡

⑭仙巖園から磯公園

戦前までは仙巖園は一般に公開はされていませんでした。昭和 24 (1949) 年に島津家から鹿児島市に管理が任されて「磯公園」と称して庭園見学が可能になりました。その後、昭和 32 (1957) 年に再び、鹿児島市から島津家に管理運営が移り、「磯庭園」として同じく一般公開されました。正式名称は「仙巖園」ですが、こうした時期があったことから、磯公園や磯庭園の名称は愛称として市民に親しまれることになります。



仙巖園内

⑮滝之神水源地

水源地の場所は鹿児島市ではなく、吉野村に属していましたが、人口が増加する鹿児島市街地への配水のために昭和 6 (1931) 年から水道拡張工事が実施されました。通水が始まったのは昭和 10 (1935) 年 10 月で、この年行われた陸軍特別大演習に間に合うように工事が進められました。



滝之神水源地

⑯地域の温泉銭湯

上町地区の人々の生活にとって重要な温泉銭湯も平成期までたくさん営業していました。現在はみやこ温泉や湯ノ山温泉、長寿泉、坂元温泉、かごしま温泉が営業しています。昭和期には、桜島温泉センター、上町温泉、滑川温泉、みその温泉もありました。時代とともに公衆浴場は少なくなっています。

⑯城山展望台の変遷

現在の城山展望台は、海側の眺望には長け、かつての上山城の一部であったと考えられます。明治 40 (1907) 年、皇太子殿下（後の大正天皇）がこの地まで登られることになり、展望台が整備されることになりました。その際の遊歩道は、照国神社横からの急坂を登るかつての大手口に沿ったものでした。その後、昭和 33 (1958) 年には天皇（昭和天皇）皇后両陛下が登られるなどして整備が進みました。



城山展望台

⑰小坂通り

小坂通りは、かつての大龍寺から浜町へと延びる道です。現在でも緩やかな坂道となっています。この坂道は周辺が丘陵地であったことから開鑿かいさくを行い、坂道を通したようです。町人町である浜町への最短距離を確保する意図がうかがわれます。



小坂通り

【上町地区の主な未指定文化財リスト】

1. 薩摩国における「地方」の時代	
1	能楽源流の碑 催馬楽の地名
2	長田神社（福ヶ迫諏訪神社）
2. 島津本宗家の居城としての時代	
3	清水城跡
4	浄光明寺関連
5	なつみの滝
3. 藩政時代の中核	
6	秋葉神社
7	蛇の穴
8	樟脳山
9	興國寺墓地
10	メルヘン館横の石灯籠
11	砲術館跡

1 2	鋳製方跡
1 3	消えた地蔵町
4. 鹿児島駅の登場から現在へ	
1 4	最大乗院
1 5	不斷光院の仁王像
1 6	鶴江崎神社の石碑
1 7	上町市場
1 8	上本町への町名変更
1 9	坂元墓地（川口雪蓬など）
2 0	鹿児島測候所跡
2 1	伊東佑亨元帥誕生地の碑
2 2	風景樓跡
2 3	日豊本線の旧トンネル
2 4	大龍小学校の資料館
2 5	日本澱粉株式会社跡
2 6	仙巖園から磯公園
2 7	滝之神水源地
2 8	地域の温泉銭湯
2 9	城山展望台の変遷
3 0	小坂通り